

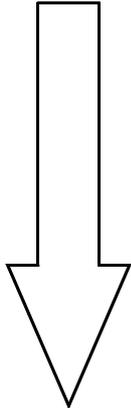
環境影響評価（環境アセスメント）手続の流れ

- 環境影響評価（環境アセスメント）は、開発事業を実施するに当たり、事業者自らが環境への影響について事前に調査・予測・評価を行い、一般の方々や行政からの意見も踏まえて、環境保全の観点からより良い事業としていく制度。

事業計画の立案段階

事業計画策定後の段階

配 慮 書

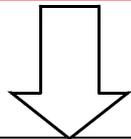


※配慮書手続では、事業の位置や規模等に関する複数案を設定し、重大な環境影響について比較検討を行う。

法第一種事業	法第二種事業 (第一種の75%の規模)	条例対象事業 (第一種の50%の規模)
配慮書必須	配慮書任意	配慮書不要

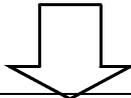
法第一種事業…規模が大きく環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるものとして必ず環境影響評価を行うもの
 法第二種事業…法第一種事業に準ずる規模で必要に応じて環境影響評価を行うもの

方 法 書



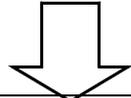
※方法書には、事業の目的・内容や実施区域及び環境影響評価を行う項目や調査手法を記載し、住民や関係機関からの意見を聴く。

調査・予測・評価
環境保全措置の検討



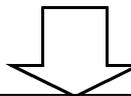
※調査・予測・評価の結果や環境保全措置を記載し、住民や関係機関からの意見を聴く。

準 備 書



※準備書に対する意見を踏まえ、必要に応じ見直した上で評価書を作成し、公表する。

評 価 書



〈事業実施〉

報 告 書

※必要に応じて、工事に行った環境保全措置や事後調査の結果を記載し、公表する。